

2024 年度 (令和 6 年度) 学校評価自己評価表

幸千 中学校区

校番

福山市立 幸千中 学校

最終更新日

2024年(令和6年)10月15日

I 福山市

ミッション
ビジョン

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、
日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ○子どもに力をつけるために、先生方が新しい手法・ツールを模索しながら、多様な取り組みをされている。 ●保護者・地域住民への積極的な情報発信を行い、連携をさらに深めて欲しい。	児童生徒の現状 ●不登校出現率が高い。 ●体力テストにおいて、県の平均値以上の項目が少ない。 ○地域行事やボランティア活動に主体的に参加する児童・生徒が年々増えている。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	思考・創造力 表現力 思いやり 能動的市民性 ○主体的に学び よく考える生徒 ○自分なりに表現し伝え合う生徒 ○思いやりのある生徒 ○人や社会に貢献しようとする生徒 ○住み続けられる町づくりを考えることを目的にした学習を核に各教科等と関連づけたカリキュラムを実施することで、めざす子ども像に迫る取組を行う。 ○生徒の実態を細やかに分析し、生徒のつまずきの要因に対応した指導と支援を行う。
--	---	---	---

Ⅲ 自 校

ミッション	育成する力 (21世紀型 “スキル&倫理観”)	思考・創造力	表現力	思いやり	能動的市民性
福山に愛着と誇りを持ち、 変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。	めざす 子ども像	レベル3 自分自身の「思考・想像力」について評価し、示すことができる。	自分自身の「表現力」について評価し、示すことができる。	自分自身の「思いやり」について評価し、示すことができる。	自分自身の「能動的市民性」について評価し、示すことができる。
学校教育目標		レベル2 情報を収集するとともに、分析・活用しながら、問題を発見し、その問題解決を目指すことができる。	多様な人たちに、相手の立場や背景を考えながらわかりやすく伝えることができる。	周囲の幸せを考えることができ、集団や他者に対して、思いやりを持って行動することができる。	社会をよりよくしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がよりよくなるために行動できる。
有為の人 ～夢の実現にむけ、真摯に努力する生徒の育成～		レベル1 与えられた情報を整理できる。	自分の意見や考えを集団の前で話すことができる。	集団や他者との中で、他者を気づかえる。	所属する一員としての自覚を持つ。
現 状	研究	テーマ	問いを創る授業について探究する		
〈児童生徒〉 ・生徒自らが問題発見をし、問題解決することに挑戦している。例えば、地域ボランティアを生徒が企画、運営し、取り組み後には次に向けての改善策を考えている。また、学校行事においても、生徒が創る行事に取り組んでいる。 ・授業の学びの場面だけでなく、日常生活においても、探究する姿勢がまだ弱い。 ・不登校生徒が、52名（8％）いる。※全国平均 5.98％（R4） 〈授業〉 ・生徒はゴールをイメージし、それに向かって主体的に学習を始めつつある。しかし、授業に対して受け身の生徒がまだ多く、生徒が学びの必然性を感じ、主体的に学習に取り組めるようにするために「生徒が問いをもつ授業づくり」を目指している。 ・検定に挑戦することを通して自信を持った生徒が増えており、授業の延長、主体的な学びの一環として「検定に挑戦することをよし」とするムードが醸成し始まった。	内容等	①「はてなプロジェクト」（生徒が「問い」をもつ授業づくり）を学期に1回実施する。 ②指導と評価の一体化について意識した実践を重ねる。			
	めざす授業の姿	○生徒が「問い」をもつ授業（主体的・対話的で深い学び） ○わからないことがわからないといえる授業（誰一人見捨てない、生徒指導三機能）			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 幸千中 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロ セス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
5	・主体的・対話的で 深い学びの推進 ・教員の授業力の向 上と生徒に対する確 かな学力の育成	★	継 続	・生徒の主体的に学ぼう とする態度を育む。 ・教員の学びをファシリ テートする力・単元を構 想する力を高める。	・生徒が課題意識をもっ て学習に取り組めるよう な単元・授業づくりを探 究する。 ・指導と評価の一体化を 意識した実践を重ねる。	・教員が生徒の変化に応 じ、柔軟な授業の実践 (教職員100人アンケート 関連項目において肯定的 評価90%以上) ・生徒の学びの状況（生 徒アンケート関連項目に おいて肯定的評価80% 以上） ・全国学調/伸び調査/各 種調査（昨年度結果より 上昇）	・教員の柔軟な授業実践 についての肯定的評価は 97.1%であった。 ・生徒の学びの状況の肯 定的評価は84.4%で あった。 ・全国学力学習状況調査 においては、国語につい て正答率が福山市の平均 値に追いついた。学力の 伸び調査においても、国 語について学力が伸びた 生徒の割合が、市平均よ りも上回った。（3年＋ 3.0ポイント、2年＋ 4.9ポイント）	3	4	・各教科で付けたい力を 明確にして、生徒の思考 場面を意識した単元構想 シートを作成し授業を行 う。 ・教員同士が授業づくり について学び合うため に、授業参観週間を設定 する。 ・定期試験等で習得した 知識を活用して解決を図 る問題を作成し、実施す る。					
2	・自尊感情、自己肯 定感、自己効力感の 高い生徒の育成 ・一人一人の多様な 幸せであるとともに 社会全体の幸せでも あるWell-beingの理 念の実現		継 続	・自分で決めて実行し成 功する体験を通して生徒 に自信を育む。 ・生徒がボランティア活 動を企画・運営する。	・ライフスキルプログラ ムの実施および取組内容 の全校周知。 ・各種検定の推進（検定 の意義および実施計画・ 結果等の周知）。 ・ボランティア活動の企 画（月に1回）と活動成 果の周知。	・不登校出現率（諸問題 集計にて7%以下） ・生徒アンケート「ボラ ンティア活動に積極的に 参加している」60%以 上 ・生徒アンケート「自分 で目標を決め、学びに向 かっている」85%以上	・担任を中心とした生徒 との関係作りを進めている。 （不登校出現率 3.9%：7月末現在） ・月1回のボランティア 活動を実施している。 （生徒アンケート「ボラ ンティア活動」に積極的 に参加している48%） ・自分で目標を決め、学 びに向かっている生徒の 割合 86%	3	3	・新規の不登校生徒発生 に対応するため、担任を 中心とした計画的な教育 相談の実施を行う。 ・生徒が参加しようと思 える（ボランティア）活 動内容を計画するととも に、ボランティア部を中 心に参加の呼びかけを行 う。					
2	・生涯にわたって運 動に親しむととも に、健康の保持増進 と体力の向上を目指 す生徒の育成		継 続	・主体的に体力の向上に 取り組む態度を育む。 ・運動の楽しさを実感 し、健康を大切にする態 度を育む。	・体育の授業で、筋力・ 基礎体力の向上に係る種 目の継続実施。 ・授業の中で協働的な学 習の場面を与え、他者と の協力や励ましの中で自 己肯定感が高まる取組 を行う。 ・生徒が生活習慣の改善 や食育の推進の機会をも つ。	・体力・運動能力調査に おいて、筋力・筋持久力 の項目で全国平均値以上 にする。 ・生徒アンケートにおい て体育的活動の場面にお ける協働的な活動に対す る肯定的評価が80%以 上 ・朝食摂取状況 （生徒アンケート関連項 目において肯定的評価 90%）	・体力・運動能力調査に おいて、筋力・筋持久力 の項目で全国平均値以上 は1種目であった。 ・体育的活動の場面にお ける協働的な活動に対す る肯定的評価は、92% であった。 ・7月実施のアンケート における結果は「毎日食 べている」76%、「週 5日以上食べている」 13%であった。	2	2	・体育の授業開始後の補 強運動で、筋力・筋持久 力に関わる運動を継続的 に実施する。 ・授業の中で他者との協 力や励ましが実感できる 場の設定を行う。 ・生徒会を中心に朝食の 必要性や意義を啓発する 活動を行うとともに、学 年通信などを活用し、保 護者への生活習慣の改善 について呼びかけを行 う。					

3	・教職員が元気、笑顔で勤務できる環境の充実 ・教職員が個性を発揮しながら、生徒とともに自ら挑戦し続けることができる環境づくり		継続	・教職員どうしの対話、コミュニケーションを深める。 ・組織マネジメントを確立する。	・業績評価（自己申告）書で、教職員一人一人がやりがいの持てる目標を設定する。 ・チーム幸手として協動的で支え合える組織体制を構築する。 ・カリキュラムマネジメントを意識し、生徒の資質能力を育み、教職員一人一人の持ち味を生かした持続可能な教育課程を編成する。	・教員が教科の面白さを実感（100NEN教育アンケート関連項目において肯定的評価85%以上） ・授業づくりを行う時間の確保（100NEN教育アンケート関連項目において肯定的評価80%以上） ・個性が認められている（100NENアンケート関連項目において肯定的評価85%以上）	・教科の面白さを実感できている教員の割合 100% ・授業づくりを行う時間の確保ができている教員の割合 82.4% ・自分の個性が認められていると感じる教員の割合 85.3% ・今年度前半は、指標として設定した項目の目標値を上回ることができた。引き続き、教職員が働き甲斐を感じられる環境づくりに尽力していく。	3	4	・教職員が意欲を持って勤務できる環境をつくるために、組織づくり、業務改善、持続可能な取り組みを、教職員と一緒に考えて考えながら、更に充実させていく。 ・教職員一人一人が子どもたちを高めるため、自分自身を高めるためにやりたいことや取り組んでみたいと考えることに対して、積極的に後押しするとともに、必要な支援を行っていく。					
---	---	--	----	--	--	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--

「プロセス評価の評価基準」

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

「達成評価の評価基準」

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

「総合評価の評価基準」

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。